

文化芸術の力を活かした「美の滋賀」づくり
ー新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する取組についてー
＜美術館活動について＞

1. 新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する取組について

滋賀県では、県民が滋賀の美の魅力を知り、その「美」を育み、守ることにより、県民の誇りづくりや滋賀のブランド力向上、地域の活性化を図る「美の滋賀」づくりを推進している。推進に当たっては、3つの取組の柱を基に県民や民間団体などが主役となって活躍いただけるよう取り組んでいる。

- (1) 県民や関係者とともに「美の滋賀」の土壌をつくり、活動を活性化させる
- (2) 新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する
- (3) 滋賀の「美」の魅力を県民自らが伝える舞台をつくる

この中で、「(2) 新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する」については、「美の滋賀」の拠点・入口となる新生美術館の実現をめざして、近代美術館と琵琶湖文化館の資源を活かし、①美術館の核となる収蔵品の展示と収集の取組、②美を通じて創造活動の現場や暮らしの場とつながる取組、③現場と交流しながら受発信する取組を進めている。

2. 具体的な取組

(※琵琶湖文化館の活動については、資料1-2を参照)

① 美術館の核となる収蔵品の展示と収集の取組

近代美術館が収蔵している近代日本画や郷土滋賀県ゆかりの美術、現代美術などのすぐれた収蔵品(コレクション)について、県内外において積極的に公開を図っているほか、アール・ブリュットに関する調査・研究を行い、作品の収集を進めている。

■ 県内移動展示事業

県民の皆さんに収蔵品の魅力を知っていただけるように、県内施設との連携による展示を行う。平成29年度は成安造形大学を会場に、大学との共同企画で、「色」と「かたち」を軸に現代美術を身近に感じられる展覧会を開催した。



「めぐれ! つながれ! 色とかたち。ワイワイわれらのモダンイズム」展(平成29年10月～11月)

■県外美術館での収蔵品展示

近代美術館の収蔵品を県外の美術館に貸出し、展示いただくことで、美術館のアピール努めている。平成 29 年度は福井県立美術館、名都美術館(愛知県)、和歌山県立近代美術館、国立国際美術館(大阪府)等、9館で展示された。



福井県立美術館
(小倉遊亀・安田靉彦
等の作品を展示)



名都美術館
(志村ふくみ
の作品を展示)

■アール・ブリュット作品収集

近代美術館の学芸員が福祉施設等において調査・研究活動を行い、アール・ブリュット作品の収集を進めている。



福祉施設に
おける作品
や作家の調
査

② 美を通じて創造活動の現場や暮らしの場とつながる取組

美術館の活動や美術の魅力を広く知っていただき、地域と連携・交流しながら美術館づくりを進めるための取組(みんなで創る美術館プロジェクト)等を行っている。

■美術館地域連携プログラム

美術館職員が地域の学校・施設・団体等と連携し、県内各地でワークショップや講座を行っている。

<平成 29 年度実績(平成 30 年 2 月 28 日現在)>

○学校出前授業プログラム 55 回 参加者数 4,135 人

県内の小学校・中学校・特別支援学校において、子どもたちがアートに親しむことができるよう、美術作品を題材にしたゲームや作品制作の授業などを実施。

○地域出前プログラム 80 回 参加者数 5,090 人

自治会・子ども会・学童保育等地域の団体において、美術鑑賞や仏教美術に関する講座や、子どもを対象としたワークショップなどを実施。

○たいけんびじゅつかん 9回 参加者数 705 人

様々なテーマの創作体験プログラムを用意して、親子で楽しむことができる講座を、地域の施設等と連携して実施。



学校出前授業プログラム



地域出前プログラム



たいけんびじゅつかん

■新生美術館見本市（美の糸ロ・アートにどぼん！）

県内の団体や作家、施設との連携により、親子で体験できる作品制作など、幅広い分野のプログラムを用意し、滋賀の美の魅力を体感することができるアート・イベントを実施している。



「美の糸ロ・アートにどぼん！2017」（平成29年11月3日（金・祝））
会場：成安造形大学 来場者数：約2,200人

③ 現場と交流しながら受発信する取組

県内各地の美の資源やそれに関わる人々の活動など、滋賀ならではの魅力を県内外に発信し、認知度を向上させることで、将来の新生美術館の集客にもつなげるための取組を行っている。

■「美の滋賀」プロモーション事業

○「美の滋賀」講座

「美の滋賀」の奥深い魅力を県内外の皆さんに知っていただける講座を、滋賀県内や「ここ滋賀」との連携により東京で開催。



日本画家・山元春挙をテーマとした講座を
蘆花浅水荘（大津市）で開催



神と仏の美をテーマとした講座を
東京・LEAGUE 有楽町で開催

○「美の滋賀」探訪ツアー

近代美術館の学芸員や専門家の案内で、滋賀ならではの多彩な美のスポットを訪ねる旅のモデルを提案する、モニターツアーを実施。



神と仏の美をテーマとしたツアー
（大津市・浮御堂）



湖西の暮らしと自然の美をテーマとしたツアー
（高島市・木工作家のアトリエ）

文化芸術の力を活かした「美の滋賀」づくり
ー新生美術館をつくり、地域や現場と交流しながら受発信する取組についてー
＜休館中の琵琶湖文化館の活動について＞

1. 館外での展示活動

琵琶湖文化館では平成 20 年度の休館以降、他館との連携により毎年展覧会等を開催している。

[平成 29 年度実績]

特別陳列「世界記憶遺産『朝鮮通信使に関する記録』登録記念展」



開催期間:2 月 24 日(土)～3 月 18 日

会場:安土城考古博物館

琵琶湖図部分(琵琶湖文化館蔵)

2. 収蔵品貸出

半世紀以上にわたる博物館活動を通し、国宝・重要文化財を含む多数の文化財を収蔵している琵琶湖文化館には、県内外の博物館・美術館から例年 20 件以上の貸出依頼がある。これらの依頼に対し、適切な展示環境や期間等であるかを判断し貸出を行い、収蔵品の活用を進めている。

[平成 29 年度実績]※2 月末現在

貸出館数 延べ 21 館 貸出点数 延べ 132 点 観覧者数 延べ 468,010 人

貸出収蔵品

[国宝]六道絵 人道生老病死四苦相図、[重文]如意輪観音像、[県指定]女神坐像、
[市指定]誕生釈迦仏立像 等

貸出先

県内:滋賀県立安土城考古博物館、大津市歴史博物館、野洲市歴史民俗博物館、
米原市伊吹山文化資料館、比叡山延暦寺国宝殿、MIHOMUSEUM 等

県外:京都国立博物館、奈良国立博物館、府中市美術館、川越市博物館、徳川美術館、
龍谷ミュージアム、サントリー美術館、三井記念美術館 等



六道絵



如意輪観音像



女神坐像



誕生釈迦仏立像

3. 所有者による宝物の特別公開

所有者による宝物の特別公開は、暮らしの中で守り伝えられてきた滋賀の文化財の魅力を存分に発揮する舞台であるとともに、地域住民が自分達の宝や誇りを再確認する場となっている。琵琶湖文化館では特別公開のために寄託品の一時返却を行っており、この取り組みは地域と琵琶湖文化館を繋ぐ重要な機会にもなっている。

[平成 29 年度実績]

12 社寺等 点数 28 点

[重文]銅造薬師如来立像(聖衆来迎寺 大津市)、

[県指定]普賢十羅刹女像(成菩提院 米原市)

[市指定]木造仮面(赤鬼・青鬼)(日吉神社 東近江市) 等



銅造薬師如来立像



普賢十羅刹女像



仮面(赤鬼)



仮面(青鬼)

4. 打出のコツチ

琵琶湖文化館の収蔵品をはじめとした文化財を身近に感じていただくことを目的に、所有者等の協力を得ながら滋賀の文化財をめぐるタイムリーな話題を提供する文化財講座を平成 20 年度から開催している。



[平成 29 年度実績] 5 回開催 延べ参加者 777 人

第 1 回「金剛輪寺・十二神将の魅力に迫る」 5/18(木)

第 2 回「究極の城 彦根城」 6/15(木)

第 3 回「日吉山王祭礼図を読み解く」 7/20(木)

第 4 回「近江の曳山祭り」 8/17(木)

第 5 回「朝鮮通信使と近江」 9/21(木)

5. ホームページを活用した情報発信

琵琶湖文化館のホームページでは、画像と解説付きで収蔵品を紹介するなど様々な情報コーナーを設けて、収蔵品の魅力発信を行っている。

- ・画像と解説付きの収蔵品の紹介
- ・他館への貸出情報(収蔵品公開情報)
- ・学芸員による収蔵品をめぐる文化財コラム(浮城モノ語り)
- ・一般の人があまり知ることのない博物館の日常業務や収蔵品にまつわる文化財情報の発信(あきつブログ)

[平成 29 年度実績] ホームページアクセス件数(1 月末時点) 13,765 アクセス

この他にも、テレビや書籍等での利用のための写真図版の提供や、県内の文化財に関する公開活用等についての相談などにも対応している。